

『『未知への挑戦』とくしま行動計画』及び 『v s 東京』とくしま回帰』総合戦略』の評価結果の概要

1 県政運営評価戦略会議について

政策推進に係る「県民意見の積極的な反映」と「県民目線からのチェック機能の強化」を図るため、県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）を設置している。

この戦略会議において、令和元年7月に策定された県政の運営指針である『『未知への挑戦』とくしま行動計画』（以下「行動計画」という。）及び挙県一致で地方創生を推進するための『v s 東京』とくしま回帰』総合戦略』（以下「総合戦略」という。）の施策について、評価を行った。

評価結果は、「徳島県総合計画審議会」、「地方創生“挙県一致”協議会」にそれぞれ提言し、次年度の行動計画や総合戦略の改善見直し、新たな施策展開等につなげていくこととしている。

あわせて、「とくしま目安箱」等に寄せられた県民からの意見・提言の中から優れたものを選定し、「徳島県総合計画審議会」に提言することにより、県政への積極的な反映を図ることとしている。

2 評価方法について

（1）評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（91施策）及び総合戦略に位置付けられた具体的な施策（15施策）を対象とした。

（2）評価の視点

行動計画は、令和元年度から令和4年度までの4年間を計画期間として策定されたものであり、今回はその2年目の評価を実施した。

総合戦略は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間として「第2期」が策定され、今回はその初回評価を実施した。

また、昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、計画改善見直しに向けた「委員からの提言」に重きを置く評価方法とした。

なお、今回の評価対象である令和2年度の目標には、新型コロナウイルス感染症の影響が反映されていないことから、各施策の評価にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業について、その影響や県の対応状況を踏まえた上で、委員から意見をいただいているが、評価区分の変更は行われなかった。

（3）戦略会議の開催状況

行動計画及び総合戦略について、第1回は8月16日（月）に開催し、第2回及び第3回は、新型コロナウイルス感染拡大による「とくしまアラート」の引き上げに鑑み、書面会議により開催した。

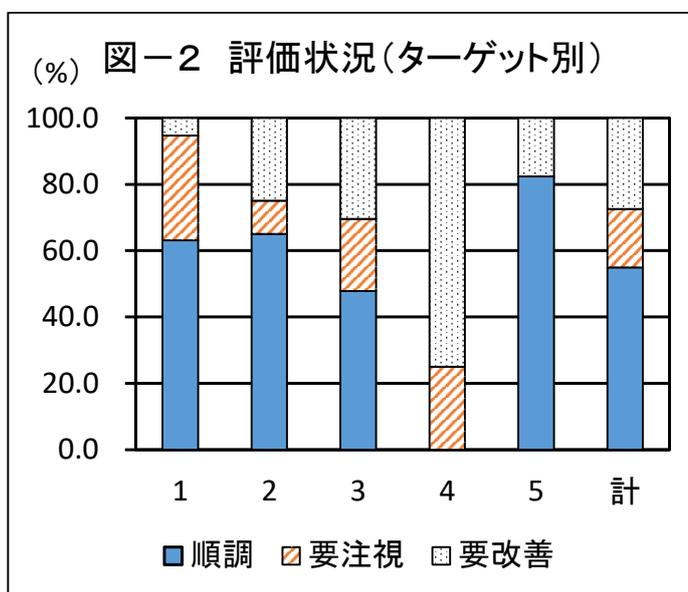
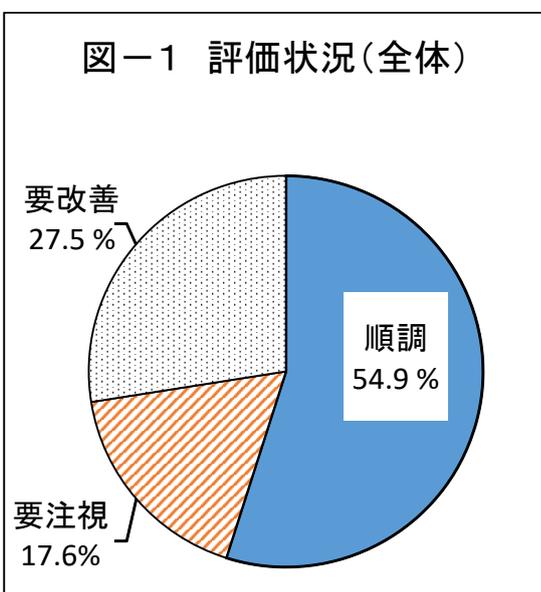
3 行動計画の評価結果について

(1) 総括

「順調」と評価されたものが50施策(54.9%),「要注視」と評価されたものが16施策(17.6%),「要改善」と評価されたものが25施策(27.5%)となった。

表－1 主要施策の評価結果

ターゲット	評価区分						主要 施策 数
	順調 (%)		要注視 (%)		要改善 (%)		
1 未来へ雄飛! 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	12	63.1	6	31.6	1	5.3	19
2 未来へ加速! 「強靱とくしま・安全安心」の実装	13	65.0	2	10.0	5	25.0	20
3 未来へ挑戦! 「発展とくしま・革新創造」の実装	11	47.8	5	21.8	7	30.4	23
4 未来へ発信! 「躍動とくしま・感動宝島」の実装	0	0.0	3	25.0	9	75.0	12
5 未来へ継承! 「循環とくしま・持続社会」の実装	14	82.4	0	0.0	3	17.6	17
計	50	54.9	16	17.6	25	27.5	91
参考 R2年度の評価結果	78	85.7	9	9.9	4	4.4	91



(2) ターゲット別 意見提言 (抜粋)

ターゲット1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

- 阿波おどりの魅力は、踊りを見る楽しさと、一緒に踊る楽しみの大きく二つがある。今後、オンラインで阿波おどりの魅力を発信する場合には、踊りのすばらしさを紹介するだけではなく、国内外の参加者が、踊りがうまくない人も含め、みんなで一緒に楽しく踊れるような、参加型のコンテンツを企画してもらいたい。
- 子供の肥満率について、新型コロナの影響で約3か月間の休校が一因となって大きく増加したということだが、この結果から、動く、歩くといった普通の習慣を身につけておくことがいかに大事なかが、改めて見えたと思う。
今後の対策の一つとしては、児童生徒に毎日体重を量って記録させ、その結果を基に個別に指導していくといったアプローチが有効ではないか。
- コロナ禍でいろいろな講座がオンラインで開催をされているが、高齢者にとってオンラインは使いにくい人が多いと思う。そのサポート体制についてどう取り組むのか、デジタル・デバイドの解消という観点で検討してもらいたい。
- 人材育成について、県庁職員のレベルアップもさることながら、非常に大事なのが一般の人々のレベルアップである。今、県の取組としては、とくしまフューチャーアカデミーにおいて、将来、県の審議会等で活躍していただける人材を養成していたり、また、シルバー大学校は、学習意欲に燃えている人たちが集まり、本当に打てば響くというふうな非常に重要な役割を果たしたりしている。こういった人材がますます御活躍することを期待している。

ターゲット2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

- 消費者庁が取り組むリスクコミュニケーター^{※1}の養成という取組に、徳島県が積極的に取り組んでいることはとてもいいことだと思う。
「食の安全」と言っても、食べ残し対策やエシカル消費など様々な分野があるので、そういった分野について横断的に取り組んでもらいたい。
- 鳥獣被害について、目標は達成されているが、実際の現場では、至る所で農産物が被害を受けており、作る意欲がなくなるという農家の声も聞く。全国的な問題で難しいことだとは思いますが、引き続き、被害対策を一層推進してもらいたい。

※1 リスクコミュニケーター

消費者が、正確な情報に基づき合理的な判断・消費行動ができるよう、消費者の身近な場において正確な情報を発信できる人材。(出典：消費者庁HP)

ターゲット3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

- 「攻めのインバウンド誘客」について、ウィズコロナあるいはアフターコロナに向けた思い切った施策転換も必要かと思う。
「マチ★アソビ」や「とくしまマラソン」などのイベントについては、「できない」この時期に次の大会開催に向けいろいろな提案を行ってほしい。このピンチの状況で、いかに時間を使うかが大事である。
- 鳴門ではコウノトリブランドのレンコンが作られているが、阿南・那賀地域も生物多様性に配慮した農業のブランド化ができるのではないかな。農の里づくりでも、生きもの豊かな里で作る、安心・安全な農作物ができると良い。
- 障がいの有無に関わらず、みんなで学ぶというインクルーシブ教育^{※2}の考え方は、素晴らしい。これを進めるに当たっては、特別支援学級の教員を十分に配置すること、また、全ての教職員が専門知識を持つこと、さらに、保護者や地域の方などを巻き込んだ「地域とともにある学校づくり」が土台にある必要がある。
- 「SDGs」について、最近メディアで取り上げられる機会が多くなったので聞いたことはあるが、何なのかわからないといった声が多い。認知度を上げるためには、どうすれば良いかが課題である。

ターゲット4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

- 「あわ文化の四大モチーフ」も大切だが、その他の「獅子舞」や「だんじり」など地域における独自の伝統文化の継承にも力を入れてほしい。
できれば、地域の伝統行事やイベントのときは、文化の担い手や参加者が行政・企業等で有給の休みをとれる仕組みを作してほしい。
- eスポーツは、どんな人でも楽しめる。若者向けのイベント企画だけではなく、高齢者や障がい者の施設での普及を支援し、シニア向けのeスポーツ大会を企画するなど、徳島ならではのeスポーツの多様な展開を進められれば、国内外に発信することができる。

※2 インクルーシブ教育

人間の多様性の尊重等を強化し、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み。

ターゲット5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

- 夏のエコスタイルとして、県職員が藍染めのシャツを着用しているが、藍の色合いやデザインを考慮しておしゃれな試作品を作り、県下の自治体職員にも紹介するなど、エコと徳島の誇る藍を組み合わせた徳島ブランドとして、もう少し大々的に提案してはどうか。
- ZEH^{※3}については広く浸透しているように感じるが、補助金の申請をしても競争が厳しく受理されなかったという事例をよく聞く。予算の都合上、仕方ないが、ZEH補助金の希望者は多いので、この枠が拡充されることを期待している。
- 森林所有者の世代交代により不在村者も増え、名義も昔のままで登記ができていない森林が多い。今後、売却や寄附等が難しくなるのではないかと思うので、「とくしま森林バンク」を活用し、森林所有者の責務を明確にし、森林整備を進められるような取組を、引き続きお願いしたい。

※3 ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとなる住宅。（出典：資源エネルギー庁HP）

4 総合戦略の評価結果について

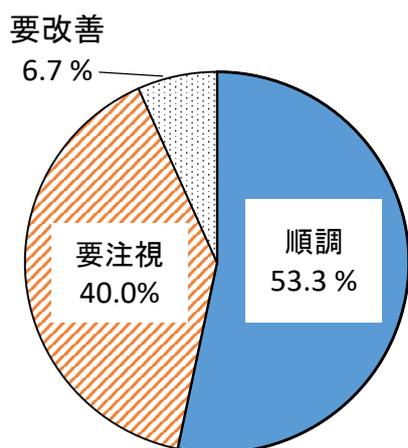
(1) 総括

「順調」と評価されたものが8施策（53.3%）, 「要注視」と評価されたものが6施策（40.0%）, 「要改善」と評価されたものが1施策（6.7%）となった。

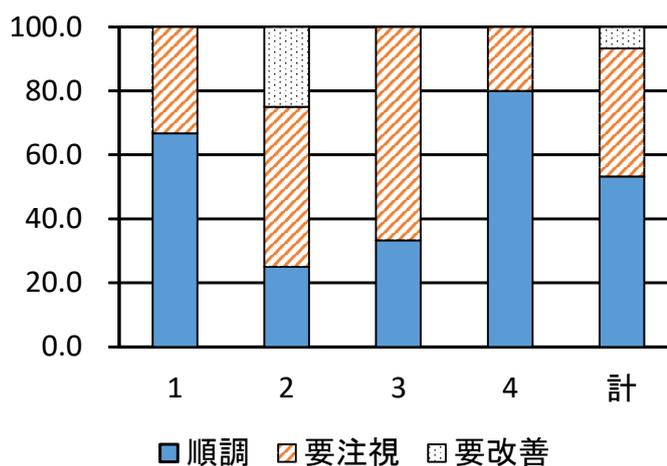
表－2 具体的な施策の評価結果

基本目標	評価区分						具体的な施策数
	順調 (%)		要注視 (%)		要改善 (%)		
1 「未来を担うひとの流れ」づくり	2	66.7	1	33.3	0	0.0	3
2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり	1	25.0	2	50.0	1	25.0	4
3 結婚・出産・子育て 「希望がかなう環境」づくり	1	33.3	2	66.7	0	0.0	3
4 安全・安心「持続可能な社会」づくり	4	80.0	1	20.0	0	0.0	5
計	8	53.3	6	40.0	1	6.7	15

図－3 評価状況(全体)



図－4 評価状況(基本目標別)



(2) 基本目標別 意見提言（抜粋）

基本目標1 「未来を担うひとの流れ」づくり

- 人口の流入・流出については、交流人口や関係人口と深い関連性があることが、研究としても定量的に明らかになっているので、観光客を増やすことや地域を活性化することを切り離して考えるのではなく、しっかりと部局で連携をして事業を進めてもらいたい。
- 移住者相談件数について、移住相談のうち、どれくらいの方が実際移住しているのかというような分析に力を入れてもらいたい。
また、徳島に移住してきた方がなぜ徳島に来てくれたかという点だけでなく、他県に移住した方がなぜ徳島以外を選んだのかという点もわかれば、そこから、いろいろなアプローチをかけることができる。今後、AIなどを活用して、そういったデータをできる限り集めてもらいたい。

基本目標2 地域を支える「魅力的なしごと」づくり

- スマート農業を展開していく上で、IoT、AIの活用、無人トラクターの使用など、お金がかかることが予想されるので、特に、これから農業をやろうという若い人たちに向けて、資金面の援助を打っていく施策をお願いしたい。

基本目標3 結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり

- チーム育児応援企業について、わかりやすく素敵なホームページがあるが、多くの人の目に触れるように、ページを検索するとき、「チーム育児」というワードだけでなく、例えば「徳島県、子育て支援」といったワードでも、表示されるようにしてほしい。
また、応援企業を増やすには、応募を待つのではなく、ハローワークと連携するなどして、こちらから積極的に働き掛けるという姿勢が必要ではないか。

基本目標4 安全・安心「持続可能な社会」づくり

- 公共交通ネットワークの形成について、特に過疎地においては、新しい形で計画を策定し、それを実際にうまく展開していくのは、なかなか難しい問題である。県としても、しっかりとバックアップをしてもらいたい。
- マイナンバーカードはこれまでの行政手続だけでなく、健康保険証や運転免許証との一体化等、今後はより一層重要視されると考える。2020年代後半には免許証の切替えのタイミングもあり急速な普及率が見込まれるが、現状の実績値は交付率が30%と未だ低い。普及率100%へ向けて、国との連携も含め、取組を推進してもらいたい。

5 戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

(とくしま目安箱への投稿)

項目	意見・提言の内容
1 自転車王国とくしまについて	<p>和歌山県は堤防上を自転車道として整備して非常に走りやすく、途中の飲食店などに立ち寄りやすい工夫をしている。</p> <p>奈良県は、案内看板を随所に設置しており、非常にわかりやすい。</p> <p>徳島県も、池田まで吉野川の堤防の道を整備してくれれば、関西方面から人が来やすいと思う。</p> <p>徳島県は自然豊かで見所が多いのだから、サイクルラックの貸出して飲食店と連動したり、自転車が走りやすい道路や案内看板を整備したりして、通年、観光客を呼べるようにしてほしい。</p>
2 起業について	<p>起業のアイデアがあるが、事務所として使用する部屋を借りるのにお金がかかる。現在、空き店舗や空き事務所がたくさん見受けられるが、これらを県庁などが借り上げて、起業する者に無償で貸与する制度があったら、有り難い。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、閉店する店や事業が多い中、新しく立ち上げていこうという起業家を応援する制度をお願いしたい。</p>
3 徳島市末広地区の開発について	<p>末広地区にある徳島県の倉庫群を開発し、人が集まれるエリアとして再整備してはどうか。</p> <p>末広・沖洲周辺は、徳島南部自動車道開通で、今まで以上に広範囲からの集客が可能となる極めて将来性の高いエリアである。県としてもこれらのエリアに投資を行うことで、高速道路の開通効果を更に高めていくべきだと思う。</p>
4 テイクアウトの容器持参について	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、テイクアウトが増え、それによりごみが増えてしまうことが気になる。他市では容器を持参した方にクーポンを配っているそうなので、徳島もごみを減らすためにそのような取組を行ってほしい。お店も容器代がいらぬし、自治体もごみの処理費が削減でき、環境にもいいと思う。</p>
5 工芸、芸術面に特化した街づくり、人材育成について	<p>工芸、芸術面について、次世代の人材育成として、幼少期から絵画、工作に関する教室を県全体で等しく受けることができる体制、小中学校での授業の強化、芸大を狙えるような専門性の高い学校を設立してはどうか。</p> <p>また、アニメ会社やそのサテライトオフィスを誘致したり、車に乗ったまま野外で映画を見るような、アフターコロナにも対応した施設を整備したり、色々な工芸作家が発表できる場を設けたりするとういと思う。</p>
6 ターンテーブルのマルシェについて	<p>「ターンテーブル」の「マルシェ」で新たな取組を始めたとのことだが、他の農業先進県では品質や見せ方などでしのぎを削っている。徳島県産農産物もパッケージを統一し、大手量販店の棚を同じデザインとしてみてはどうか。</p> <p>また、ターンテーブルを「阿波ふうど」デザイン情報発信基地とし、そのためには口コミが大切なので、東京近辺在住の県出身者の会や関係団体へメール等での案内を行ってはどうか。</p>
7 プラごみゼロ宣言について	<p>県が「プラごみゼロ」宣言を発表したことは評価すべきであり、今回の宣言が環境問題全体に広がることを期待する。</p> <p>市民団体が資源循環型廃棄物処理の処理センターの設置を県に要望との報道があったが、素晴らしい提案だと思う。ごみ処理施設については再処理施設と連携し、施設の熱利用により、温泉施設等を設け、県民に広く利用されてほしい。</p> <p>県は、自然が一つの財産ではないか。自然が財産となると、ごみ問題の解決は欠かせない。</p>
8 自ら考えて行動できる子供たちの育成について	<p>自ら考えて行動できる子供たちを育てるために、「小・中学生が運営する会社」を作ってほしい。</p> <p>どうやって利益を出すか、お金の流れや人との関わりの大切さ、交渉の仕方等、社会や経済の仕組みをリアルに体験することで、自ら考え動く子供たちを育成できるのではないかと。また、今学校で学んでいる勉強ももっと面白くなるのではないかと。</p>
9 GoToキャンペーンについて	<p>「Go To キャンペーン」制度が動きだそうとしているが、残念ながら徳島県は宿泊者数が最低の県である。実際、観光客としてカウントされている多くは帰省客だと思うので、徳島に帰省した場合に現金の補助や同窓会を開催した場合に補助など、「Go To キャンペーン」と合わせ帰省客を呼び込む施策を同時に行ってはどうか。</p>